十日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英

閑伽井嵐

新聞の新体制

四丁目　森忠雄

平地方の新聞が統制されて磐城毎日一紙になつた事は吾人の双手をあげて讃意を表する所で従來新聞及新聞記者といふものはうるさい存在だつたものだ。あれがなくなつただけでも非常に好い、

紙面もお世辭でないがいくらか好くなつたやうだが、折角物資不足時代人手不足時代にやつてゐるのだから今少し頭をひねつて考へて見たらどうだらう。第一文藝欄なんかも木下雁次なんていふ人のくだらない評釋なんか毎日〳〵のせられてはうんざりする、平地方にだつて少しは文化人もゐる筈だ、もつといろ〳〵の人の物を載せるやうに骨を折つて見たらどうだらう、和歌や俳句も新妻氏、紫浪氏、渡邊氏なんかは好いが他はどんなものだらう、是も我々は平地方の文化人として今少し後援して好いものを載せるやうにしてやつたらどうだらう、一つしかない地方の新聞なのだからどし〳〵投書もし、注文もつけて育てて見たらどうだらう、それからこの赤井嵐なんかも勿体ぶらずに各方面の人が意見を出して見たら好いだらうと思ふ、是からは自分もどし〳〵出すつもりだ、磐城毎日で平市の輿論がわかるやうにしなければうそだ。

次に二面だ、どうも小名濱や四倉の記事が多いやうだが、平湯本あたりにだつて今少し記事がありさうなものだ。是も我々市民が電話なり手紙なり或は出掛けて行つてでも材料をどし〳〵提供して見たらどうだらう、そして新聞を隣組でも役所でも大切な存在にしていつたらどうだらう、新聞の新体制！それは新聞社の尻をたたいて歩かせることだ可愛がつてゆくことだ。

（閑伽井嵐係　結構な御忠告ありがたう存じます、是非さうしていたゞきたいと存じます）

學藝

理念と形体との相互限定による明確な形象をとることが文學の技術である

（豊島與志雄）

醫學上より觀たる東北地方の人口對策

（一）

醫學博士　五十嵐雄二

嘗ての世界大戰當時英國陸軍の總帥キッチナー元帥は、『戰爭に欽くべからざるものに三つのMがある、即ちマン（人）マネー（金）及びマテリアル（物）の三者である、といつた、

この三つは敢へて戰時に限つたことでなく、平時にあつても民族發展の基礎をなす要素であるが、特に非常時局に際しては深刻にその必要が痛感せらるゝのである、その中でも最も重要にして、しかも且つ急速に補充のつかないものは、『人』即ち人的資源の問題である。

東亞に於ける新秩序建設の一大聖業完遂に乘出した我國は、更に世界新秩序建設の一翼をなす大東亞共榮圏の確立に邁進しつゝある今日、その人的資源の確保は國策中の最重要なるものとして朝野の關心を集めつゝある次第である

從來人口問題といへば產業經濟、食糧等を中心とした所謂經濟問題が主でめつた關係から、多く經濟學者や爲政者に依つて論議せられてゐたのであつたが、健全なる素質を有する人口の增殖を計り、民族將來の發展を期する上から醫學者、生物學者の參與も欠くべからざるものとされるに至り、最近頓みにこの方面よりの研究が盛んになり種々有益貴重なる業績も續出するに至つた、私も人口增殖の積極面である產科學に携る關係上いさゝか人口問題に關心をもつてゐるものであるが、我が東北地方に於ては如何なる方面に重點を置いて今後の對策を講ずべきであらうか、以下少しく卑見を述べて見たいと思ふ。

「詩」

古き手帳より

『コスモスに寄せて』

（郡山）　長谷川正男

コスモスよ　花が咲いたぞ
お前は此の歡喜にひたつてゐるだらう
と同時に育て上げた自分も嬉しい
薄赤なしつくりとした花の一つ一つに
お前の生命が宿つてゐる
お前は樂しく面白く
微風に踊り狂ひ
雨に打たれて純情を嘆きつつも
強く生きてくれ
一度は來る散花を前に……
今自分は喜びと同時に
その悲しみと不安が湧いてくる
コスモスよ！
お前はお前の運命に似た人々の爲に
雄々しくも
やさしく咲き續けよ

連續講談〔121〕

異說赤穗浪士（いせつあかほらうし）

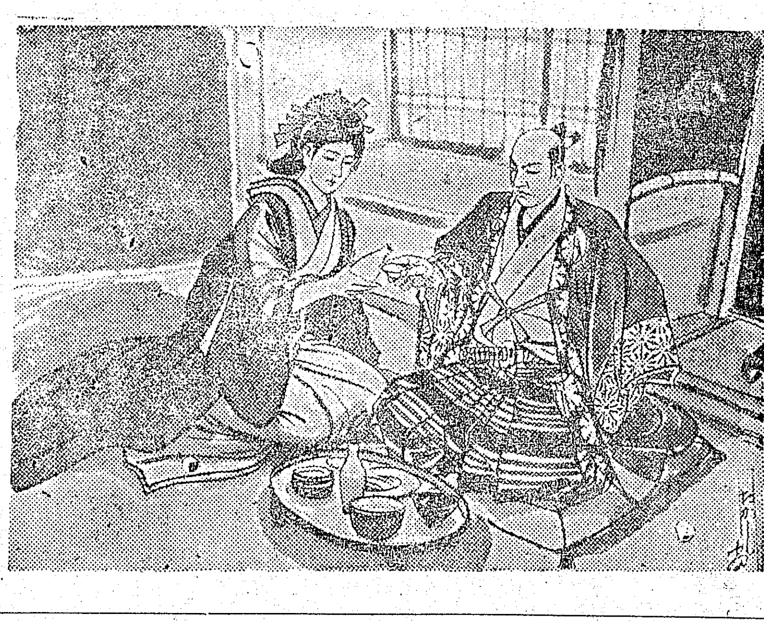
桃川若燕

畵　城木喬

江戸下向

次の日立派な禮物を持たせて寄越す、これが緣となつて大石も二文字屋へ出入りをするやうになる來れば必ず散財する、從つて二文字屋の者も大石を大切にする、かうしてゐる內に大石とお輕は嬉しい仲となつた、それを知らぬ黨中の浮腰武士小山源吾右衛門進藤源四郎の兩人、大石の近頃の放蕩は心からで仇討は全く念頭を去つたものと思ひ込んで主人次郎左衛門に話をつけて大石の表向きの妾に世話をした、これについて大石もお輕も以前から關係のある事は口を拭つてゐる、これは大石が一味の同志に對しても少しも油斷をしなかつた證據で夫れゆゑ小山、進藤の兩人は御城代でさへ敵を討つ所存がないのだから我々もそんな苦勞をするよりも一層金がある內は遊んで暮らした方がいゝといふ氣になつたので後には遂に黨中を脫する事になつた

さて大石とお輕との仲は益々深くなつたが、併し大石は次郎左衛門親子に對しても江戸下向は亡君の殘念相續する覺悟である事などは語らない夫れゆゑ次郎左衛門は『これは〳〵御在宅でございますか、承はりますれば明日は江戸へお立ちとの事、それゆゑ一寸お尋ね申しまして御座います』『それは千萬忝ない、ナニ當分の事ぢやで又直ぐ戻つて來る、マア一杯やるがいゝ』と云ひつゝ酒宴の用意をさせ、次郎左衛門にもすゝめ、自分も盛んに盃を重ねる、お輕は流石に女の事別れが辛いと見えてモヂモヂしてゐる、その上大石の近くに侍してゐるだけに仇討の念があると云ふのは薄々乍ら知れるので、大石の口からは當分の別れとは聞かされてゐるが、これがこの世の別れかと思へば淚はせき來るばかり、夫れと見た大石もお輕の心の內を察したが元より大賢の人物、色にひかるゝやうなことはない、『これ輕、そなたはなんでそのやうに欝いでゐるのぢや、江戸へ參つてもまた直ぐかへつて來る、そのやうに泣く事はない、サア何時もの通り酌でもしてくれ』と酌をさせ酒盃を上げ乍らホロリとした、間もなく二文字屋の父娘はかへつて行く、翌くれば元祿十五年十月の七日いよ〳〵大石が山科を發つて江戸下向の日、大石に從ふのは近松勘六、菅谷半之丞、速水藤左衛門、三村次郎右衛門の四人、これに仲間などを連れて十人ばかり、この下向について本にかう書いてある『これやこの行くを限りの逢坂のせきくる淚を袖に止め、暫しは宿す月影の消えぬ氷と見えながら小波寄する水の面蕭々として凮寒く壯士の心を痛ましめ、遠き昔の易水の秋も斯くやと眺めつゝ草葉の露を踏み分けて幾夜定めぬ草枕衣かりがね寒き夜に旅寢の夢も結び得ず、篠の小笹に蔭宿す秋も末野の夜半の鐘、虫の音いとゞ打ち濕り匹馬凮に斷いて、はや曉の鈴の聲……中略……伊勢路をあとに尾張路や三河を越えて遠けくもここは何處と遠江、駿河の國もはや過ぎて向ふは何處伊豆相模遠くも來つゝ旅の空、四方八重霧立ちこめて何時かは霽るゝ胸の月、都の方は白雲の、靉靆く果てにぞなりにける、高くも登る函嶺山振りさけ見れば天の戸を、おし明け方の海の面、沖の小島に波荒れて漂ふ舟に身の上も、思ひ比ぶる行くてかな松風寒く時雨來て、暫く馬をも駐めつつ、小田原の宿打ちすぎて、酒匂、大磯相模川、深き思ひは身にのみぞ、縺れて解けぬ藤澤や脆き淚の袖の色、唐くれなゐに染めなせる、唐土原や砥並ケ原片瀨、腰越袂をも、濡らす浮世の露けさは草葉に受けて隱れ家を鎌倉山に止めつゝ忍ぶ命の過ぎ所心深めて着きにけり



肺、肋膜、心臟、胃腸の弱い方に
血となり肉ともなる
『生血の生膽』を
生スッポン
岡崎スッポン店
平市六丁目本町通り
養龜所　平市正月町一番地

鳩尾加壓器（みぞおちかあつき）
鳩尾を落すこと
胃腸は丈夫に動脈硬化が柔ぐ
一、鳩尾を落すことは千古を貫く保健の祕訣です、
一、使つた其日からこれは効くぞと判るのが特徴です
製造元　東京　林健體會本部
頒布元
【說明書實驗例無代進呈】
平市古鍛冶町一〇
頒布所　阿康藥局
電話四四番

國債、公債
両替、金融
多田井質店
平市大工町　電話五九一番

故障の起らぬ
AKL
原口のラヂオ
原口無線電機株式會社製品は商工省選定一級品
MD-8號 微電界級　MS-100號 微電界級
ダイナミツク
使用眞空管マツダ 12F 47B 57 58　㊫¥73.70
使用眞空管マツダ 12F 47B 24B 24B　㊫¥52.60
ラヂオは全部公定價格品です
ラヂオとデンキの店
古山電氣商會
平市二丁目警察署通り（電呼166）

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店　關內正一
事務取扱者　阿部助次郎
平市二丁目　電話一六番

日本油脂株式會社
特約店
ペイント類、ボイール油
ドライヤー、防錆塗料
船底塗料、屋根塗料
黑板塗料、
一手販賣
㋑
磐城水產工業株式會社
小名濱町築港內　電一四四

味の種
榮養調味
醬油、鰹節、砂糖の經濟
極く少量の〃味の種〃を御使用になれば七分搗米や外米もフンワリ美味しく、榮養も高めて召上れます
△御飯を炊くとき米一升に對し小盃一杯
△其他和洋支あらゆる御料理に適宜に用ひると特有の味を生じます【二合瓶七十錢、四合瓶一圓三十錢、一升瓶三圓】
代理店
白菊酒店
平市田町【電話五四番】

手術室完備
外科專門
野村外科
小名濱町古港
元津村屋跡

附屬產院
新設
姙產婦入院隨意
產科
婦人科
木村病院
平市新川町
電話一六四番

食事。
喫茶。
酒場を兼ねた。
レストラン
サロン
營業時間
開店…午前十時
御食事は午前十一時より、
閉店…午後十一時限り、
平市銀座街
電話五九二番

入院隨時
產科
婦人科
根本醫院
平市南町　電話三四番
根本莊次郎
根本貞雄

鑛泉と割烹
鐵道指定旅館
小瀧
電話（小名濱）一〇三番

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
福島縣立代用精神病院
內務省指定
郡山腦病院
院長醫學博士　金磯五郎
▽入院隨時△
郡山驛より約三丁
安積中學より五丁
郡山市外大槻村針生
（電話九二五番）

小兒科
內科
◎入院隨時◎
酒井醫院
平市南町（電五五番）
醫學博士　酒井保

內科、外科
小兒科、花柳病科
會田醫院
小名濱町上横町

內科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
高久病院
平市田町　電話五一三番
院長　醫學士　高久忠

外科（內臟、整形）
內科、皮膚科
花柳病科
石井醫院
小名濱仲町　電十八

產婦人科
外科一般
花柳病科
【見習看護婦募集】
黑澤醫院
小名濱町小學校前　電四五
醫學士　黑澤廣

外科、內科
花柳病科
レントゲン科
草野醫院
小名濱町中島
電話一三七番

ほねつぎ
專門
押田整骨院
四倉仲町（村田下駄店裏）
電話（呼）一三四番

口腔外科
齒科一般
森合齒科醫院
植田町（電話七一番）
院長　森合芳男

口腔衛生
口腔外科
矯正科
鈴木齒科醫院
小名濱町銀座通り

肇國の精神を發揚し　あす建國祭式典

兩縣社へ國威宣揚を祈願

聖紀2601年の建國を奉祝する建國祭は『肇國の精神を發揚し、皇運を扶翼し奉る國民の覺悟を鞏固ならしむるもの』と平市當局は肇國精神を全市民に鼓吹、明十一日は午前九時を期し市內の汽笛、サイレン、鐘等を一齊に吹鳴して奉祝時刻を知らしめ

建國祭式典は同九時から市第一小學校庭で執行、市內の各官公衙長・各公共團体中小學校生徒等一萬余名集合、君ヶ代吹奏裡に國旗掲揚國歌齊唱、宮城遙拜、次いで青沼市長式辭を述べ、篠山聯合青年團長宣誓文朗讀、紀元節唱歌齊唱、萬歲奉唱して國旗を降下、式を閉ぢ、それより皇威宣揚祈願祭を執行する爲各團体から二名宛の代表者を擧げて縣社子鍬倉神社、縣社飯野八幡神社に參拜、祈願文奏上玉串奉奠する

市內建國行進

萬余の市民歩武堂々

建國祭式典閉會後各團体及中小學生(五年生以上)を四班に分離し左の行程で市內を建國行進し正午頃散會の豫定

◇建國行進

△第一班、第三小學校及第一小學校の樂隊先頭、第二青校、第四校、北部青年、愛婦、國婦（第四、五分會）

△第三班、工業學校、青年團、少年團、第一校、佑賢學舍、青年女子部、平婦人會、愛婦、國婦、磐城高女

△第二班、第一青校、平商業校、第二小學校、藤田女學校、石城産婆校、市役所警防團

△第四班、磐城中學、磐城青校、第三小學校、平陽女學校、片倉青年校、家政學園、平看護婦學校、軍友會傷痍軍人

（第一班第四校前解散、二、三、四班市役所前解散）

全市民擧げ建國奉祝

『宮城遙拜』午前九時

明十一日午前九時、サイレン汽笛等を合圖に全市民は各々その位置のまゝ建國奉祝を忘れぬやう市役所から全戸へ通牒した

▽家庭に於ては「國民奉祝の時間」に夫々宮城遙拜を行ふこと其の他の者は各自其の在所に於て宮城遙拜を行ふこと

▽官公衙、學校、銀行、、會社工場等に於ては成るべく前項の時刻に式典を擧ぐると共に本趣旨を徹底せしむること

▽神社に於て執行せらるゝ紀元節祭には市民は多數參列すること

縣社子鍬倉神社　午前十時
縣社飯野八幡神社午後二時

▽實施上の注意
國民奉祝の實施に當りては克く紀元節の嚴肅なる意義と時局の重大性を認識し苟も浮華輕佻なる祝賀氣分に墮せざること

四倉青訓教育

四倉町青年訓練生未教育者の指導訓練は去る六日實施十五日まで十日間毎日午後六時より九時まで三時間宛在郷軍人分會員が指導に當つてゐるが成績良好である

平刑事協會へ五十圓寄附

五十嵐博士感謝の印

平市新川町五十嵐醫院長五十嵐雄二氏は平刑事協會の活躍振りに感謝してこの程五十圓を協會へ寄附した

地方の指導者集め啓蒙運動開始

十五日市公會堂で講演會

大政翼贊會縣支部では豫て計畫してゐた縣民の啓蒙運動に乘り出すことになり、本部から吉村監察部員多田協力會議員が派遣され十五日午後一時から平市公會堂で地方の指導的立場にある郡市部會長、顧問參與等を集めて講演と座談會を開くことに決定した當日平市に集る範圍は平市、石城、双葉、相馬の一市三郡下の各郡市町支部長、全理事、參與（平市は特に常會委員出席）等で翼贊會の趣旨を徹底せしむることに成つた

平市豫算會議進む

十五日から市長の査定に入る

平市明年度豫算七十余萬圓を按分する各課豫算會議は八日産業、衛生課關係から始め九日は日曜日に拘らず社寺兵事防空關係を了へ今十日社會、教育、十一日學務關係、十二日庶務、十三日土木水道、十四日歲入關係を以つて一旦會議を終り數字を纒めた上で市長の査定に入る豫定である

戰場精神を發揮　翼贊体制指導

歸還軍人團結の座談會開く

歡呼に送られ歡呼に迎へられた歸還軍人が翼贊運動に硝煙鼻つく戰場精神を發揮、新体制推進隊と成つて銃後の人々を指導しようと力強い發足をする…小名濱町平製氷工場長馬目安一氏、漁業八島屋立花勇氏、實業學校郷喜一氏等は最近出征入營祈願祭は元より當然出席すべき行事にも遠慮勝ちなのを遺憾としてゐたが今回前記諸氏が發起同町全歸還兵に十一日の建國祭をトし招集令(？)を發令小名濱第一校に座談會を開催各自の職域に戰場精神を發揮〃戰友〃が一致團結、現下の重大時局に直面して町の中堅隊となるべき團体を結成、大政を翼贊町民の良き指導者たるべく懇談することに成つた

デマを吹き飛ばし誠意を披瀝

玉川村議『村民へ告ぐ』

小名濱、玉川兩町村合併問題は屢報の如く玉川村一部の强硬な反對運動も漸次緩和されつゝあるが、小名濱側と詰託して事を行つた如くデマを飛ばされて來た玉川村議十名は「村民各位に告ぐ」と玉川村を小名濱に合併するの計畫は『全然私心を離れ村の發展以外に何物もない』ことを强調し、兩町村の過去、現在、將來へ……とあらゆる資料を提示して全村民に〃合併の有利〃を説き誠意を披瀝してゐる

【前略】兩町村の現勢財政の大要について尚又一人當り負擔額の比較對照より見るも寧ろ玉川村は重くして小名濱町が却つて輕き現象を呈して居る實情であります而うして熱意ある思索探究心を以て産業、文化、教育社會等凡ての分野領域を展望し或は時と處と位の見地より靜思深考し又過去、現在、未來を達觀するならば如何なる角度より縱横に踏査考究するも決して不安あるところ無く却つて大船に乘つて大海に船出するが如く前途は洋々たる希望を抱きつゝ力强き更生飛躍の發足を成し得ることを確く信ずると同時に今後一層の多幸あらんことを衷心より祝福して止まないのであります。（後略）

初めて積つた春の淡雪

忽ち陽氣をとり戻す

暦面立春も過ぎた九日夜から氣温もグット落ち氷點下三度八分、折からの春雨も十日朝方から雪に變り平地は今年初の積雪を見た

農事試驗場午前十時の觀測に依ると降雪量二センチ最低氣温〇、三度八、平均温度二度

午前八時頃から氣温はぐんぐん上昇してつもつた雪は忽ち消え春らしい陽氣をとり返した

四倉の舊正月

新体制未し

松飾りは十四日まで

四倉町では舊正月の松飾を元日より七日迄一週間の程度に止め八日の朝は海岸に燒捨てることを町役場より全戸に通達したが十四日迄飾り續けるもの約六分通りもあり舊正新体制未しの狀態である

舊正の興業界を飾る

浪曲『勝太郎』來る

十二日聚樂館で長講二席

ビクターレコード專屬の本邦浪曲界寵兒「玉川勝太郎」一行は十二日(舊正十七日)午後六時から平市の舊正月を飾つて聚樂館に開演する

勝太郎は當地方でも馴染み深く各地で好評を博し何れも滿員の盛況ぶりである

聚樂館では得意の「天保水滸傳、森の石松」の長講二席口演する筈で盛況を豫想されてゐる、尚入場料は破格の大割引きで一名八十錢

三井榮一氏寄贈の第一校校旗樹立

郷土平市內の公共事業に多額の寄附を行つて市民から感謝されてゐる三井榮一氏は紀元二千六百年を記念し母校の平第一小學校へ校旗を寄附することになり調製を急いでゐたが今十日漸やく到着した爲同校では直ちに寄附採納の手續きを濟ませ午後一時から縣社子鍬倉神社で關係者出席樹立式を擧げた

明十一日は紀元節の佳辰に當るので始業式前に全校生徒に披露の上母校の名譽をかけ市內建國行進に捧持する

劍道昇級試驗

受驗者は百六十四名

平署管內劍道昇級試合は九日同署武德殿に開いた受驗者百六十四名により盛會であつた成績發表は三月中旬で段別の受驗者は次の通り

△初段百五名△二段五十一名△三段九名△四段三名

校庭擴張

青年の奉仕で

高坂校國民教育の備へ

內郷村高坂小學校では校庭の狹少で不便を感じてゐたが國民學校開設に備へ校庭擴張を計畫、同村青年團員約三百五十名が出動、九日五十七坪の擴張工事を完成した

同工事は校庭の右側道路四十坪を埋立、高さ三十五米幅員四米を切崩したもので起工は二月二日

素人記者の漫歩

（13）

久和署長の印象

警察行政に信頼おける人

稻水生

警察署といふ所は役所の中で一番親しみ難い印象を與へる。從つて素人記者も流石に警察といふと足がすくむ。二月八日、ぽかぽか暖い日だ愈々平警察署の玄關前に立つた。もとの郡役所を改造したのださうであまり大きくもない平家建だ。しかし武道場は立派だ、刺を通じて署長室に入つた。見ると社の半谷氏が對坐してゐる室はもとの郡長室ださうでかなり廣い東の窓寄りに大きなテーブルを置き署長さんはそこに坐つてゐる。傍にはストーブが燃えてゐる。明るくて感じが好い。椅子に腰を下すと署長さんがお茶を汲んですゝめてくれる。半谷氏が暇を告げて歸つた。この署長さんは實に堂々たる体軀だ『虫歯が痛んでね』といつて顔を顰めていらつしやる。表情が固くて一寸とりつきにくい、仕方がないから思ひ切つて、『署長哲學でも話して下さいませんか？』と切り出して見た、署長さんはそれでは話さうかといふやうな表情で話を始めた時々こつちが合槌を打つたり無遠慮に自分の意見を述べたりしてゐる中にすつかりさつきの固い表情が解れて來た。

私は警察官としての心構へに就いては、武道の四つの型を基本として考へてゐる武道の四つの型といふのは一眼二足三膽四力これである、先づ第一に警察官たるものは眼の修養が大切である、敵を見自分を見る、一般民衆に接する場合に、自分が民衆の立場になつて好く考へて見てやる、是が敵を知るである。また自分はいかなる職責を持つてゐるか、この自分の立場を考へて見る。これが己を知るである、二足、足は胴体をさゝへる。警察官はしつかりした時流を理解するに足る常識をそなへよ、警察官としての胴体をさゝへるものはその豐富な常識だ。三膽、職務がら膽力の必要である事は他のいかなる職業にも優つてゐる。四力、是は体力と學力をかねていふのだ。職務が職務だから体力のない人は警察官としては不適當だ。それから警察官は絶えず讀書なり、何なりをやつて社會から非常識の非難を受けぬやうに努めなければならぬ。是が心的の力である。

久和署長は當年四十七才、押しも押されもせぬ警視署長だ劍道柔道とも四段の腕前ださうであるから警察官としての体力方面の力は充分だ。三十分も話をしてゐる中に笑顔も見せてくれ、話もぐつとくだけて來た。そして米騷動のあつた頃警官の待遇が惡いといふので退職するものが續出した、しかし現在相當の地位にあるものは此時代の苦難を乘り越えて來たものばかりであるといふ事や自分は無理のないやうにその地方に適した警察行政をやつてゆきたい、警察官はどんな弱い者をもその正しい主張を押しつぶさずいかなる權門の前にも下らず毅然とした態度が必要であるといふやうな事などをいろいろと話してをられた、心的方面の修養の力のほどはこのお話でわかる。最後に「御趣味は？」と伺つたら

武道と讀書ですね。私の引越荷物の中で書籍は相當の分量になつてゐる。何でも讀みます。大衆文藝の中には人情の機微をいつてゐるものがあり時々感心する事がある。警察官としてはいろいろの事を知つてゐる必要がありますからね。

管下の人口十八萬、警官は約百名居るさうで、警官の數の多い事は縣下一だといふ。こつちが新聞に關係してゐるだけに署長さんが文藝を愛好されてゐるといふ事實を知つて無性に嬉しくなつた。そして朗らかな氣持で署長室を辭した。時局重大の折柄あらゆる治安維持の責は一にかゝつて警察當局にある。我々は此署長に多大の期待と信頼とをかけて差支へないと信ずる。

女中共同の防火群

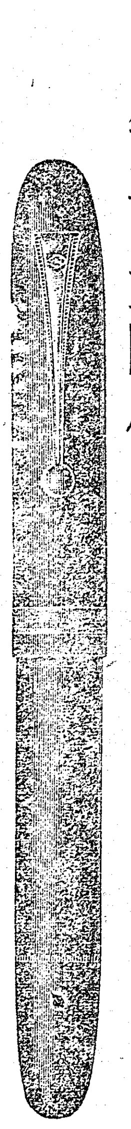
平署で近く表彰する

平市南町料亭玉よし方雇人郡司キヨ(三三)同町菊の家雇人草狩トシ(一八)同越之家女中玉川美津子(一八)同大內ウチ子(一九)飲食店大國女將福富イト(三〇)の五名は昨年十一月以來風雨をいとはず毎晩九時から十一時頃まで交代に同區內の夜警に努め防火、盜難に備へてゐる、これを知つた平署では優良家庭防空群として近く表彰することに成つた

天氣豫報

今晩　西の風晴れ勝の天氣
明日　北西の風晴れたり曇つたりの天氣
（十一日）
滿潮　前四、三〇　後三、二〇
干潮　前一〇、〇〇　後一〇、三五

萬年筆は專門店へ



(公)2.00以上

マルオカ萬年筆本舗
岡萬年筆專門店
平市中央通り

素人工員募集

求人者　神奈川縣川崎市　某工作機株式會社
募集人員　男子若干名
職種　旋盤、組立、仕上、檢査其ノ他
應募資格　年令十六才以上五十才迄　學歷尋卒以上
提出書類　履歷書一通
銓衡日時及場所　二月十五日午前九時　平國民職業指導所
詳細ハ左記ニ照會ノコト

平市田町
平國民職業指導所
舊稱　平職業紹介所

改稱御知せ

拜啓時下初春之候貴下益々御淸榮之段大賀奉候陳者當工場毎々各別なる御引立を賜り誠に有難く御禮申上候、今度新体制に即應し生産擴充計畫の爲會社設立の上左記之通り改稱す、二月より事業經營致す事と相成候間何卒倍舊の御引立を賜り度御願申上ぐると共に改稱御通知まで如斯御座候　敬具

舊名稱　平市佃町三番地　佐藤木工場　主　佐藤誠

改稱　東北木工興業有限會社　取締役社長　佐藤誠

各位

東亞共榮圏に一新紀元を劃する新春堂々たる一大獅子吼の殉情大浪曲!!

ビクターレコード專屬
玉川勝太郎一行來演
二月十二日（舊正十七日一日限り）
會場　聚樂館
【入場料金八十錢稅共】
風戶興行部責任

內科　外科　小兒科　物療科
◎入院隨時◎
四倉町本町
菅波醫院
電話六三番

◎生徒募集
第一學年二百名
入學申込　四月五日限り
平市城山
磐城青年學校

父高階一郎儀東北帝國大學附屬醫院に於て加療中の處一月卅日午前一時二十分死去致候間生前の御交誼を深謝し此段謹告仕候

追て葬儀は佛式にて二月十二日午後一時より二時まで自宅に於て相營み申可候
尚時局柄故人の遺志に依り御供物花環並に御香奠等の儀は固く御辭退申上候

昭和十六年二月九日
福島縣平市字四軒町十四番地
男　高階次郎
外　親戚一同

當礦々主高階一郎儀一月三十日午前一時二十分東北帝國大學附屬醫院に於て死去致候間茲に謹告仕候

昭和十六年二月九日
高階炭礦鑛業所
瑞浪炭礦鑛業所
高階鑛業龍生礦山